

## 令和2年度（2020年度） CEGLOC 外国語教育部門活動報告

CEGLOC外国語教育部門長 久保田章

本年度はグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）が誕生して6年目であると共に、本学の第3期中期目標・計画最終年度の前年でもあり、外国語教育部門においても、これまでの実績を基盤として、来年度を見据えた相応の成果の確保を目指した。一方で、新型コロナウイルスの蔓延により、オンライン授業を含む教育体制の大転換が最優先事項となり、さらには、来年度より入学者を迎える「総合学域群」に関連するカリキュラムや評価体制の整備、令和元年度より開始された英語と初修外国語の新カリキュラムの実施状況の点検などが主な課題であった。また、これらの課題に迅速かつ効果的に対処するため、英語セクションと初習外国語セクション（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、朝鮮語）の相互支援体制のさらなる強化を図り、関連するFD活動や研究に真摯に取り組んだ。

以下に外国語教育部門の主な取り組みをまとめ、活動報告とする。

1. 令和2年度（2020年度） CEGLOC 外国語教育部門 実績報告書
2. 令和2年度（2020年度） CEGLOC 外国語教育部門 活動記録
3. 令和2年度（2020年度） FD イベント報告
4. 令和元年度（2019年度） 春期海外語学研修報告

## 令和2年度（2020年度）実績報告書

### CEGLOC 外国語教育部門

#### 1. 概況

新型コロナ禍という未曾有の事態ではあったが、(1) 学術研究の場で活用できる外国語能力の養成、(2) 国際社会での活動やグローバル・コミュニケーションに資する異文化対応力の向上、(3) トライリンガル教育を通じた多様な価値観と複眼的な思考力の涵養、という3つの基本理念を堅持しつつ、特に「教育の質保証」に留意して、オンラインによる外国語の学習指導を推進した。

コロナ禍下の諸問題に迅速に対応し、より円滑な組織運営を行うため、英語セクションの外に初修外国語セクションにもあらたにセクション長を立て、両セクション及び各語学間の連携強化と意見の集約を図った。実際に様々な課題が生じたが、外国語教育部門の教職員が一致団結して適切に解決を図ることができた。具体的には、年度当初に緊急ですべての外国語の授業がオンライン・オンデマンド型になったが、関係教職員の熱意と献身によって事前のFD研修会が複数回開催されたので、順調に授業を開始することができた。また、1年次生と3年次生を対象とする英語熟達度試験をオンラインで実施することとなったが、関係職員の多大な支援により、新しい実施体制がスムーズに整備され、高い受験率を達成することができた。さらには、外国人教員を中心に、オンライン教育に関するFD研修会が活発に実施され、その後の授業の運営と改善に大きく貢献した。

学生と教員双方がほとんど未経験のオンライン授業という異例の環境ではあったが、アンケート結果などからも、共通教育としての外国語教育の質保証の取り組みが着実に行われ、総体的に前年度以上の実績をあげることができたものと確信する。

#### 2. 教育

##### (1) オンライン授業

本年度はまさに新型コロナ禍への対応からスタートした。大学の基本方針を受け、4月1日の外国語担当者連絡会議において、すべての外国語の授業をオンライン・オンデマンド型とすることを決定した。その後、授業開始予定の4月27日に向け、英語セクションと初修外国語セクションとが緊密に連携協力し、それぞれの主催で3回ずつ、計6回のオンラインFD事前研修会を開催した。さらに授業開始後の実施状況や問題点を把握するため、英語セクション主催で事後研修会を2回、FD委員会主催で4回開催した。いわゆるICTリテラシーは教員によって大きな差が認められることもあり、「教育の質保証」の観点からも、これらの研修会は大変有効であった。実際、1クラス3、40名（あるいはそれ以上）規模にも関わらず、円滑

な外国語の授業を継続できたのは、担当教員の自助努力に加え、その成果の現れと言える。

## (2) 英語熟達度試験

英語教育については、1年次生にはプレイスメントテストとして、3年次生には英語熟達度試験として TOEFL ITP<sup>®</sup> を実施し、統一基準で経年的に全学生の英語力を把握できる体制をすでに確立していたが、学内における外部検定試験のニーズを再検討した結果、令和2年度より、TOEFL ITP<sup>®</sup> から TOEIC<sup>®</sup> IP に変更し、受験率のいっそうの向上を図ることとした。

また、今年度はコロナ禍の影響で4月にプレイスメントテストができなかっただけでなく、状況的に年度内に対面で集団試験を実施できる見通しも立たなかったため、TOEIC<sup>®</sup> IP テストはオンラインで実施することとし、関連して、1年次生には2回、3年次生には都合3回の受験機会を提供することを決定した。1月20日までに収集されたデータによると、1年次生の受験率は97.3%、3年次生は90.5%で、結果的に大学が第3期中期目標として掲げている「受験率90%以上」をはじめて達成することができた。

## (3) 総合学域群への対応

新設の「総合学域群」の学生移行に係る外国語のカリキュラムについては昨年度から議論を重ねてきたが、特に初修外国語が成績点算入科目として正式決定されたことを受けて、来年度以降の教材や成績評価の在り方について再検討し、対応方針を決定した。指導内容と評価の公平性の観点から、学習指導項目の統一化や成績評価基準の明文化を行うこと、可能な限り教材の統一化を図ることなどを申し合わせた。また、これを受けてフランス語とロシア語では来年度に統一教材を用いることになった。

## (4) 専門英語基礎演習

来年度以降の英語カリキュラム作成に当たり、平成30年（2018年）度以前の旧カリキュラムにおいて2年次生対象の必修科目であった「専門英語基礎演習」の単位未修得者数の調査を行った。本科目については、令和元年（2019年）度以降の新カリキュラムで廃止された後も、単位未修得の学生のために暫定的に開講を継続してきたが、まだ100名以上の該当者がいることが判明したため、来年度についてはできるだけ数多く開講することとなった。

## (5) 学内公募型教育プロジェクト

「教育戦略推進プロジェクト支援事業」の一環として「外国語活動認定の制度化と筑波式統合言語学習の推進」が、「学群教育用設備整備等事業」の一環として「耐

震工事後の基礎的学修環境形成のための設備整備」が認められた。前者のプロジェクトの目的のひとつは、授業以外の留学や外部検定試験の成績、外国語によるボランティア活動等に対し、「優れた外国語活動認定書」を発行し、学生の自主的な学習や活動を支援することである。今年度は3年計画の2年目に当たり、認定基準と内容について更なる精緻化を行い、認定書発行の準備を行った。もう一つは、全学の教員を対象とする「内容言語統合型学習（専門教育の授業を英語で行うこと、通称 CLIL）」の指導に向けた支援で、そのための研修会を4回開催した。CLIL 研修の取り組みは、英語による専門教育の拡大・強化に対応し、本学の教育・研究のグローバルスタンダード化に貢献するものである。また、「耐震工事後の基礎的学修環境形成のための設備整備」としては、メディアライブラリーを改修し、機器の整備や所蔵教材の充実を図って、利用者の利便性を大きく向上させることができた。

#### (6) 海外語学研修

英語、ドイツ語、中国語、ロシア語の海外語学研修については、実施に向けて昨年度より先方の教育機関と必要な情報交換を行ってきたが、世界的な新型コロナウイルスの流行により、残念ながら夏期、春期ともにすべて中止せざるをえなかった。現地での語学研修は、リアルな異言語・異文化体験を通じて参加者が実践的な外国語の運用能力をランク・アップする機会を提供し、本学が目指すグローバル人材育成にも寄与するものである。いずれの研修も参加学生から高評価を得ているだけでなく、研修先の大学等の機関から筑波大生が高く評価されてきた実績も踏まえ、来年度には状況が好転して再開されることを期待したい。

#### (7) TOEFL 関連科目

先に言及したように、今年度から1年次生と3年次生対象の英語熟達度試験は TOEFL ITP<sup>®</sup> から TOEIC<sup>®</sup> IP に変更されたが、学内には留学や進学のために TOEFL の成績向上を目指す学生も相当数いることから、前年度に続き、選択・自由科目として全学群生対象の「TOEFL Practice」「TOEFL Academic English」を開講した。

### 3. 研究

- (1) CEGLOC 外国語教育部門の定期学術誌である『外国語教育論集』第43号を刊行した。
- (2) 外国語教育部門関係教員の今年度の科学研究費補助金受給者は12名であり、各自外国語教育および関連分野の研究に従事した。

#### 4. 講演会・社会連携

本学「日本財団 中央アジア・日本人材養成プロジェクト (NipCA)」と連携し、「新入生に贈る特別講演会」を7月と11月の2回オンラインで実施した。また、同様に同プロジェクトと協力し、多方面にわたる有識者を招聘し、「中央ユーラシアと日本の未来」公開講演会をオンラインで8回(2020年4月以降12月まで)開催した。

#### 5. 課題と展望

- (1) 定年退職者や転出者の後任の補充が困難な状況が続いており、さらに特に任期付き教員の新規採用人事の遅延(再公募)や任期途中での転出などの課題も増大している。その度に関係教員の真摯な対応によって何とか教育体制を維持しているが、外国語教育は大学の基幹教育の一端を担うものであり、安定的で責任ある指導体制が維持継続される必要がある。毎年現場で人員配置をやりくりして授業運営を凌いでいる現状では、非常勤講師予算の確保は必須であるが、それだけでは所期の目的は達成できない。CEGLOCには、全学の共通科目「外国語(英語、初修外国語)」を適切に運営・実施していく義務と使命が課されており、長期的な視野に立って、その組織の特性に留意した堅固な人員確保のシステムを構築することが求められる。
- (2) 2019年度にスタートした英語と初修外国語の新カリキュラムでは、全体として必修単位数が削減されたが、これについては、一方で選択科目が開講され、より意欲のある学生のニーズに対応できる環境が整っていることが、教育の質保証の観点からも重要である。しかしながら、現状では人手不足のために必修科目の開講に追われ、選択科目はほとんど開講できない状況が続いている。予算の確保も含め、必要な選択科目を開講できる体制を整えることが急務である。
- (3) 過去の英語検定試験の結果から、筑波大生の英語力は、上位と下位、各約20%、中位約40%と推定できる。もとより外国語の能力は試験の成績だけで判定できるものではないが、ある程度明示的に全体の英語力を引き上げるには、特に中級から中上級レベルの学生の英語力強化を実現できるような系統的なカリキュラムの開発が望まれる。
- (4) 本学では、開学以来教育機器を活用した外国語教育が全学的規模で推進されてきたが、CEGLOC棟にあった8つのCALL(Computer Assisted Language Learning)教室は、主に予算上の理由から昨年度で全廃となった。これは、少なからず教育の質自体も変化することを意味している。今後は、新しい情報テクノロジーを利用するなど、CALLシステムに代わる、より効果的な教授学習システムの構築が期待される。
- (5) CEGLOC外国語教育部門は、本学の教養教育としての外国語教育の責任組織である。その理念と目標を常に意識し、外国語教育に邁進することは当然であ

るが、部門としての組織力を一層強化するためには、教育に注力するだけでなく、業務の効率化と研究力の増強も同時に志向する必要がある。とりわけ研究については、個人レベルだけでなく、共同研究によって外部資金を獲得するなど、組織としての研究力強化も求められる。

## 令和2年度（2020年度）活動記録

### 1. 教育

- (1) 英語学習環境アンケート調査の実施（6月7日～6月14日）
- (2) 初修外国語学習環境アンケート調査の実施（6月11日～6月19日）
- (3) 春学期期末試験  
春 AB 科目：6月29日～7月3日  
春 ABC 科目：8月3日～8月7日
- (4) 秋学期期末試験  
秋 AB 科目：12月22日～12月28日  
秋 ABC 科目：2月4日、2月9日～2月15日
- (5) 授業評価アンケートの実施  
春 AB 科目：6月23日～7月31日  
春 ABC 科目：7月27日～9月4日  
秋 AB 科目：12月15日～1月18日  
秋 ABC 科目：1月28日～2月25日

### 2. 会議・委員会

- (1) 外国語教育部門担当者連絡会議（4月1日、5月13日、6月8日（メール審議）、7月8日、10月7日、11月4日、12月2日、12月28日、1月6日、2月3日、3月3日）
- (2) CEGLOC 企画調整部門会議（4月1日、5月13日、6月3日、7月8日、10月7日、11月4日、12月2日、1月6日、2月3日、3月3日）
- (3) CEGLOC 運営委員会（5月20日、11月4日）
- (4) CEGLOC 全体会議（6月3日、8月5日、12月2日、1月14日）
- (5) 『外国語教育論集』編集委員会会議（7月8日、10月7日、11月18日）
- (6) メディア・ライブラリー委員会会議（11月20日、2月18日）

### 3. 学内公募型教育プロジェクト

#### 【教育戦略推進プロジェクト支援事業】

- (1) スタート・ドイツ語試験（2019年度）  
日時：2020年2月17日（水）  
場所：CA 棟各教室
- (2) 外国語活動認定の制度化と「筑波式統合言語学習」の推進

#### 【学群教育用設備整備等事業】

耐震工事後の基礎的学修環境形成のための設備整備え

#### 4. 講演会

- (1) 2020年度 NipCA 主催 1年生に贈る特別講演会（オンライン）  
 題目：グローバル時代の国境を超えて働く人材の育成  
 ～ポストコロナをたくましく生きていくために～  
 日時：2020年7月20日（月）15：15～16：15（日本時間）  
 講師：カリフォルニア大学 サンディエゴ校 當作 靖彦 教授  
 CEGLOC：共催
- (2) 2020年度 NipCA 主催 1年生に贈る特別講演会（オンライン）  
 題目：明日の世界を読み、考え、挑む  
 日時：2020年11月6日（金）  
 講師：本学 図書館情報メディア系 落合 陽一 准教授  
 CEGLOC：共催

#### 5. FD 研修会

- (1) オンライン授業対策 FD  
 【英語セクション】  
 4月3日（金）・CEGLOCにおけるオンライン遠隔授業について  
 4月9日（木）・オンライン遠隔授業ガイドについて  
 4月20日（月）・ハンズオンワークショップ基礎編（主に外国人教員対象）  
 5月27日（水）・授業運営上の悩み事共有  
 6月30日（水）・学生アンケートの結果報告と疲労度を考慮した授業計画について
- 【初修外国語セクション】  
 4月10日（金）・基本的な方針の確認と各セクション情報共有  
 4月17日（金）・manabaやTeamsの使い方  
 4月24日（金）・manabaやOffice365の扱いに不安のある教員を対象
- (2) プロジェクト管理ソフト Bitrix24 についてのセミナー（オンライン）  
 日時：2020年6月1日（月）  
 主催：CEGLOC FD委員会
- (3) 第1回「オンライン教育体験の共有」イベント（オンライン）  
 日時：2020年6月29日（月）  
 主催：CEGLOC FD委員会
- (4) 外国人研究者のための科研費セミナー（オンライン）  
 日時：2020年7月7日（火）  
 主催：CEGLOC FD委員会  
 共催：人文社会系・URA・ICR
- (5) 第2回「オンライン教育経験の共有」イベント（オンライン）  
 日時：2020年9月25日（金）



主催：CEGLOC FD 委員会

(6) CEGLOC カンファレンス (オンライン)

テーマ：2020 年における語学教育：緊急遠隔授業とブレンド型学習

日時：2020 年 12 月 5 日 (土)

主催：CEGLOC FD 委員会

共催：JALT の CALL 分科会・JALT 茨城支部

(7) 筑波大学内研修会 - 教員のための CLIL FD 研修会

テーマ：「英語で効果的に授業を行うために」

場所：第 1 回、第 2 回はオンラインで実施。

第 3 回、第 4 回はオンラインで実施予定。

講師：第 1 回、第 3 回 吉中 昌國 (株式会社アルク専属コンサルタント)

第 2 回、第 4 回 磐崎 弘貞 (人文社会系教授・前センター長)

日時：1 日コース 4 回 10:00～17:00 (6 時間)

第 1 回 9 月 14 日 (月) 7 名参加

第 2 回 9 月 15 日 (火) 7 名参加

第 3 回 3 月 8 日 (月) 7 名参加

第 4 回 3 月 9 日 (火) 6 名参加

## 6. TOEIC® IP テスト (オンライン) の実施

(1) 学群 3 年次生対象

日時：2020 年 11 月 19 日 (木)～11 月 25 日 (水)

担当：企画調整部門、CEGLOC 事務室

(2) 学群 1 年次生対象

日時：2021 年 1 月 14 日 (木)～1 月 20 日 (水)

担当：企画調整部門、CEGLOC 事務室

(3) 学群 3 年次生対象 (追加テスト)

日時：2021 年 1 月 14 日 (木)～1 月 20 日 (水)

担当：企画調整部門、CEGLOC 事務室

(4) 学群 1 年次生対象 (追加テスト)

日時：2021 年 1 月 28 日 (木)～2 月 3 日 (水)

担当：企画調整部門、CEGLOC 事務室

## 7. その他

(1) メディア・ライブラリー、CA 棟改修工事後 (10 月以降)、時間と利用人数を制限して稼働再開

(2) CEGLOC ウェブサイトのトップページ改修、SSL 化対応検討 (HP 管理委員会)